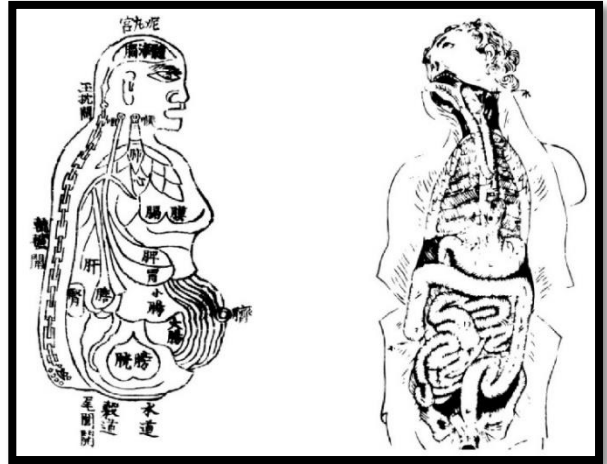


すぎたげんばく すこ ろうじん 杉田玄白と健やかなる老人(1)

1 すぎたげんばく いがく 杉田玄白と医学

すぎたげんばく ねん えど おばま げんざい
杉田玄白は、1733年、江戸にある小浜（現在の福井県）藩邸で生まれました。小浜で暮らした時期もありましたが父親の江戸勤務とともに江戸で小浜藩医（医者）として生活しました。

えどじだい いがく かんぽういがく ちゅうごくいがく
江戸時代までの医学は漢方医学（中国医学）が中心でした。江戸時代に蘭学（オランダの学問）の流入に伴って、蘭方医学（西洋医学）を学ぶ者が増え、蘭方医学の正確さに気づく者も増えていきました。杉田玄白もその一人でした。



ねん はる すぎたげんばく ご か いがくしよ て
1771年の春、杉田玄白はオランダ語で書かれた『ターヘル・アナトミア』という医学書を手に入れました。玄白は一文字も読むことはできませんでしたが、図に描かれている内臓や骨格など、これまでに学んだものとは大きく異なっていました。玄白は、一度、人体の内部を実際に見て、確かめたいと思いました。現在でしたら、人体解剖は病院などの医学専門機関で行われますが、当時はそのような場所はありません。刑場で死刑になった罪人の死体の解剖（当時は「腑分け」と呼ぶ）に立ち会うのが唯一の場所であり、機会でした。

まちぶぎょう かいぼう た あ もう で げんばく あさくさ きた こづかはらけいじょう かいぼう
町奉行に解剖の立ち会いを申し出ていた玄白は、浅草の北にあった小塚原刑場での解剖の立ち会いを許されます。ところが、玄白は医者でありながら解剖をしたことがありません。解剖は当時、差別された人が行っていました。

2 きべつ ひと 差別された人とは…

差別された人とは、どのような人だったのでしょか。

きべつ きげん いま ねんいじょうまえ へいあんじだい とうじ ひとひと じぶん
差別の起源は今から 1000年以上前の平安時代にさかのぼります。当時、人々は自分たちの知識や考 えに及ばないことに、人間世界や平穏な日常がこわれることとして、恐怖（「おそれ」）を抱いていました。特に恐れていたのは、「死」です。人間や動物が死ぬこと、あるいは死体を特に恐れていました。人間や動物の死体は放っておけば腐り、病原菌が繁殖し人々に悪影響を与えるからです。

この「おそれ」を取り除くためには、人間や動物の死体を処理をしたり、きれいにしたりする作業が必要です。この作業を「キヨメ」と呼びました。「おそれ」を取り除くには、「キヨメ」が必要です。その「キヨメ」の役を担ったのが、河原などに住む人たちでした。当時、天災などのために住む土地を離れた人々は河原など税のかからない土地に住み着くことができました。河原に住む人たちは税の代わりに、死体処理を含む清掃の仕事が課されました。また、警察の仕事も、罪を犯した人の命を時には奪わなければならなかったため、「おそれ」を取り除く仕事とみなされていました。人間が生活するうえで「キヨメ」は必要なことでしたが、時代が進む

につれ、「キヨメ」役の人々がいつの間にか自分たちとは違う人として差別されるようになりました。

3 差別された人たちの暮らし

差別された人たちは、動物の死体やそれを処理することがおそれられている中で、その大切な命と向き合い暮らしました。動物の死体が腐る前に、皮、肉、内臓を取り出し、皮は太鼓や鼓、武具、肉は薬、骨や内臓は薬や肥料として、失われた命を生かしました。

解剖の技術や知識も暮らしの中で身に付いたもので、こういった技術や知識が近代医学の流れと結びつきました。

医学のほかにも、差別された人たちは農業、皮革製造、太鼓づくり、竹製品の製作販売、薬売り、灯心づくり、砥石づくり、染め物、織物、運送…など、様々な仕事を通して人々の生活を支えました。

死体を単に恐ろしいという考えは次第に弱まっていきましたが、差別された人々に対する差別意識は、いっこうになくなりませんでした。

杉田玄白と健やかなる老人(2)

4 解剖（腑分け）

玄白は、解剖に優れていると聞いていた虎松に解剖をたのんでいました。虎松は、差別されていた人でした。しかし、虎松はあいに急性病で、代わりにその祖父である90歳ぐらいの老人が解剖を行うことになりました。「健やかなる（とても元気な）老人」で、若い時から解剖を行ってきたことを話してくれました。

老人は、「これは心臓でございます。これは肝臓、これは胃であります。」などと、あれこれ指し示し説明してくれました。

玄白は、手に持っていた『ターヘル・アナトミア』と照らし合わせてみたところ、その図と一つとして違っているものはなく、まったく同じであることに驚きました。

同時に、玄白は、「この『ターヘル・アナトミア』を少しでも日本語に直せば、治療に役立てることができるであろう。何とかして日本語に直したいものだ。」と思いました。

5 玄白の思い

玄白は、『ターヘル・アナトミア』を日本語に直すことを決意するとともに、「医者」という立場を見直すきっかけもつかめました。

「今回の解剖は『医者』を仕事としている者が、医学の基本である人体の本当の姿を知らずにいたことはたいへん恥ずかしい、人体を理解して治療を行うことが本当の『医者』であろう。」と痛感しました。

また、「健やかなる老人」の技術や知識を目の当たりにしたことで、「人間は、上は君主から

下は庶民に至るまで、男女以外に分けることができない同じものである。にもかかわらず、人を上下に分けて位をつくり、またその人々に武士や百姓、町人などと身分をつけて区別をしても、人間であることはみんな同じである…。医者も同様に、患者の地位にかかわらず、病状の緊急性や軽重を考えて、病気を治し、患者の苦痛を取り除くことに専念すべきである。人の身体はみな同じであり、差別なく患者を診ること…」ということに気づきました。

6 玄白の生き方

1773年、玄白は2年の歳月をかけて仲間とともに『ターヘル・アナトミア』を日本語に直し、それに基づいて、1774年、日本最初となる解剖書『解体新書』を出版しました。

玄白の残した『形影夜話』という書物にこのようなエピソードが残されています。

玄白は、貧しい患者のところにも治療しに行ったと言われています。

ある日、弟子が「貧しい家へ行くのはみっともないのでやめてください。」

と言ったところ、玄白は「貧しい人の治療は恥ずかしいことではない。恥ずかしいことは治療を間違えたときだ。」と答えたそうです。

差別はもともとあったものではありません。自然にできたものでもありません。もちろん神様や仏様がつくったものでもありません。人間がつくったものなのです。それならば、人間の良心と英知と努力によってなくすことは間違いなく可能なことだと思います。



杉田玄白と健やかなる老人

第一時間目

(1) ねらい

- ・ 人々の死へのおそれが、「キヨメ」を行う人たちを差別するようになったことを通して、「偏見・差別」の怖さを感じ、誰に対しても公正公平な態度で、社会正義の実現に努めようとする心情を育てる。

学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	教師の支援
1 「杉田玄白と健やかなる老人(1)」の前半部分を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2つ人体図を比べて、どんなことに気づきましたか。 ・ 『ターヘル・アナトミア』が、正しくて、『朝鮮漢方医学書』は間違っている。 ○ 『ターヘル・アナトミア』を見た玄白は、どんなことを考えたでしょう。 ・ どちらが正しいか知りたい。 ・ 実際の人体の内臓を見てみたい。 ○ 医者である玄白は、人体の解剖ができましたか。 ・ 差別されていた身分の人が、解剖にあたった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ それまで、『朝鮮漢方医学書』の誤った人体図で医者は患者を診ていたことを伝える。 ○ なぜ、差別された人が解剖できたか、疑問をもたせる。
2 「杉田玄白と健やかなる老人(1)」の後半部分を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ○ いつごろ、どんな人たちが、どんな理由で差別されるようになりましたか。 ・ 今から千年ほどまえの平安時代。 ・ 税のかからない河原などに住みついた人たち。 ・ 町の清掃や警察の仕事をさせられたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 差別のはじまりについて、簡単にまとめる。
3 差別のはじまりについてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ なぜ、町の清掃や警察の仕事をさせられた人たちが差別されるようになったのですか。 ・ 人間や動物の死に関係する仕事をしてい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人間や動物の死体に対する「オソレ」は、当時の人々がつくり出した誤った考えである

<p>4 差別が、なくならなかった理由を考える。</p>	<p>たから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オソレ」を取り除く仕事をしていたから。 ・「キヨメ」を行う人たちは、恐ろしいものに触れる人だと信じていたから。 <p>○ 人間や動物の死体をおそろしいとみる考えが弱まったのに、なぜ、差別はなくならなかったのですか。また、そのことをどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オソレ」を取り除く人たちを<u>自分たちとは違う人</u>だと差別した。 ・差別することが当たり前になっていたから。 ・自分の差別心には気づかなかったから。 ・みんなが差別しているから、悪いと思わなかった。 ・理由はないが差別した。 ・自分は、差別されないから関係ないと思っていた。 ・人間の都合で、差別したり、差別しなかったりしているから、おかしい。 ・間違った差別が、残っているのはおかしい。許せない。 ・差別された人たちは、くやしいと思う。 	<p>ことをしっかりと理解する。</p> <p>○ 差別や偏見の不合理に気づき、憤りの気持ちをもたせたい。</p> <p>○ <u>仕事が差別の原因ではない</u>ことをしっかりと理解する。</p> <p>○ 差別をなくしていくためには、<u>人間の弱さを克服し、自らの意志や判断で責任ある行動を取る</u>ことの大切さに気づき、自分の見方・考え方を広げ、深める。</p>
------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第二時間目

ここがポイント
医師ではなく、人間玄白に迫る。

(1) ねらい

- ・ 老人との出会いが、玄白の差別心をぬぐい去り、身分をつけて区別をしても、みんな同じ人間であることを確信するに至った過程を通して、**自分自身の心を見つめ直し**、差別や偏見のないよりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てる。

学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	教師の支援
1 「杉田玄白とや	○ 医者である玄白は、 解剖をすることに	○ 厳しい差別の中で優

かなる老人(2)」
の資料を読む。

ここがポイント
人間として、解剖についてどう思っていた？

Before

差別を自覚していない

玄白のようにすごい人でも偏見や差別心があつたんだ！

誰もがもつ偏見と差別心

2 健やかなる老人が腑分けをしているときの玄白の気持ちについて考える。

腑分けは健やかなる老人の仕事？

ここがポイント
そうか！玄白は健やかなる老人に
出会って大きく考え方が変わったんだね！

- ついてどのように思っていましたか。
- ・見るのは楽しみだ。
- ・中国の図とオランダの図のどちらが正しいかを早く知りたい。
- ・自分では、解剖できない。 **なんで？**
- ・解剖する技術も知識もない。
- ・死体を恐ろしいという意識が、玄白にもあつた。
- ・解剖は、差別されていた人がするものだと思っていた。
- ・玄白も当時の人と同じく偏見や差別心があつた。

- 玄白は、健やかなる老人が腑分けをしているのをどのような思いで見っていたのだろう。
- ・老人のもっている知識と技術に驚いている。
- ・医者でありながら、正しい知識がなかった。
- ・医者でありながら、解剖ができない自分が情けない。
- **玄白は、腑分けは本当は誰がしなければならないと思うようになったでしょう。**
- ・解剖は、本来、医者である自分がしなければならない仕事だ。
- ・医者が解剖できなければ、患者を治せるはずがない。 **あれ？何か、玄白が変わったみたいだね？**

医者として解剖ができないと恥ずかしいよね。

自分ももっていた偏見や差別心に、玄白は健やかなる老人との出会いを通して気づいた！

れた技術を身につけていた人たちの存在に気づき、玄白などの医者は、解剖する技術を持ち合わせていなかったことを押さえておく。

さらに、死体が恐ろしいという民衆の抱いている意識に玄白自身もとらわれていたことに気づかせ、玄白もまた偏見や差別心にとらわれていたことを押さえる。

○ 厳しい差別の中で優れた技術を身につけていた人たちの存在に気づく。

○ 老人との出会いが、玄白の心に変容を与えたことに気づく。

○ **玄白の心の中のBefore→Afterを考える。**

<p>3 玄白の解剖についての考え方が変わった原因について考える。(人として)</p> <p style="text-align: center;">After</p> <p>4 『形影夜話』で、玄白が一番伝えたいことを伝える。</p>	<p>◎ 玄白が恥ずかしいのは、医学の基本である人体の本当の姿を知ら知識がなかったことだけだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖は、差別されていた人がすることだと信じ込んでいた。 ・自分の心の中にも、<u>差別心があった</u>ことが、恥ずかしい。 ・身分や位で人を見ていたことが、恥ずかしい。 だから『形影夜話』を書いた。 <p>○ 『形影夜話』という本で、玄白は、「身分をつけて区別しても人間はみな同じである。」と <u>自分の偏見や差別心を反省して</u>書いている。</p>	<p>○ 玄白が、一番伝えたいことを受け止め、その姿勢に共感し、自分の言葉でその思いを表現する。</p> <p>偏見と差別心に気づき、克服しようと思う。</p>
<p>玄白が、偏見・差別心をもっていたなら、自分はどうかだろうか？</p>		
<p>5 玄白の学んだことを、どのように自分たちの生活にいかしていくか、考える。</p>	<p>○ 玄白の心の変容から、みなさんは、どのようなことを考えましたか、<u>自分の学習前、学習後の心の変化を振り返って授業前・後形式で書いてみましょう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄白は、最初は、老人をただの「差別されていた身分の人」と見ていたが、解剖を見てすごい人だと認めた。玄白は、自分の過ちを認めた。私も素直に自分の過ちを認める人間になりたい。 ・玄白は、自分の偏見や差別心に気づいたのですばらしいと思う。私も自分の偏見や差別心に気付く人間になりたい。 ・あの偉大な玄白にも偏見や差別心があったことを知って、驚いた。そして、<u>誰にでも偏見や差別心があることがわかった。</u> ・一人でも多くの人が自分の偏見や差別 	<p>○ <u>偏見や差別心は、すべての人の心の中にある。自分の中にある偏見や差別心に気づき、日頃の生活で偏見や差別心を克服していきたいという強い意欲をもち、自分の考えを深める。</u></p> <p>自分の心の変容を Before → After を授業前は、授業後は形式でまとめる。</p>

	<p>心に気付くことが、差別をなくす一番の方法だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄白が偏見や差別心をいつまでももっていたら、医学は発展しなかった。私も、友だちに対して差別していないか、もう一度、振り返って見たい。 ・正しいことを知れば、玄白のようにものごとの見方が変わるので、私も正しいことを学習していきたい。 ・<u>差別からは、何も生まれない。私も玄白のように差別を乗り越えていける人になりたい。</u> ・<u>差別を残すのも、差別をなくすのも人間であることがわかった。</u> ・日頃から、友だちを大切にできているかを、自分自身に問いかけたい。 	<p>教師が自分を語れば、児童も語る！</p> <p>教師が、自分自身の心を見つめ直して、まとめる。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------

※ 指導のポイント

- 「医師でありながら、本当の身体づくりを知らず、メスをふるうこともできなかった玄白たち」に対して、「厳しい差別を受けながら命と向き合ってきたことから、身体の細部まで知り尽くし、メスをふるうことができた老人」との対比の中で、玄白が自己の生き方を見つめ直すきっかけとなったことを考えさせたい。(道徳の授業だから可能)

→玄白の心の中の Before→After 差別心を取り払った玄白の変容から

玄白の生き方から自分の生活を見つめ直してみよう		
玄白の Before	→	玄白の After
差別されていた人たちに対する 偏見や・差別心 差別に対して無関心		人間は、は君主から庶民に至るまで同じ 身分をつけて区別するのはおかしい
自分の Before	→	自分の After
自分は差別なんかしていない		ひょっとしたら、無意識で人を傷つけていたかも